

# 技術士 2次試験に合格して



**菅原 治**  
(すがわら おさむ)

## 勤務先

株式会社 フジ土木設計

〒070-0023 旭川市東3条6丁目4-10  
TEL 0166-25-2333 FAX 0166-25-2334  
E-mail o.sugawara@fuji-doboku.co.jp

■ 専門：建設部門(道路)

## 1. 自己紹介

私は1965年(昭和40年)に旭川市に隣接する当麻町に生まれ、高校、大学では商業と経済を学び、産業用ロボットメーカーで、道内や関東圏で約10年近く各業種のメーカーや物流業者、総合商社、ゼネコンを相手に、営業職を担当してきました。

その期間の中で、バブル経済の始まりから繁栄、崩壊を経験し、日本の社会経済の素晴らしさと厳しさを感じ取ることが出来ました。

私が現在の建設分野に携わるきっかけになったのは、前職の時に、バブル崩壊後受注減少と激しい価格競争に喘いでいる中、帰省した際に北海道の建設業界は着実に仕事を受注しているとの新聞記事を目にし、「親方日の丸はいいなあ」としみじみ思ったからです。

たまたま親族の紹介で、地元の測量設計会社からお話を頂き、思案したあと家族の理解を得た上で、全く畑違いの技術職に付きました。

## 2. 受験動機

受験の動機は、大きく分けて二つあります。

一つ目は、名刺に「技術士〇〇部門」と書いてあると、まるで「黄門さまの印籠」のように見えたからです。私も「技術士」と書かれた名刺を持つことが憧れでした。

二つ目は、私の所属する会社では、技術士の受験や講習会の費用等を全て会社が負担していただけるなど、資格を取得しやすい環境が整っていたからです。

なお、口頭試験時に返答した「社会経済の発展や科学技術の向上」は、本音を言いますと、試験勉強を行っていく中で養われたものです。

## 3. 試験対策

私の受験した建設部門は、非常に多くの情報がある反面、必要な資料をどう選択し学習するかが課題

でした。

筆記試験は、過去問や講習会講師のアドバイスを参考に、要点を絞ろうと努力したのですが残念ながら絞り切れず、結局、大量の資料を学習せざるをえませんでした。

そのため、先輩技術士などからは「受験の3か月前から200時間くらい勉強すれば大丈夫」と言われましたが、私はその3倍は学習しました。

R1年度からはコンピテンシーが明確になったおかげで、何を書けば評価されるかが分かりやすくなり、加えて設問に対して書かなければならないキーワードも、すぐに思い浮かぶようになりました。

口頭試験は、札幌でベテランの講師の方に模擬面接やアドバイスを頂いたり、100問以上の想定問題を作成して、家族に試験官になってもらったり、鏡を見ながら回答したりして練習しました。

3月の合格発表までは3ヶ月以上ありましたが、仕事をしていても期待と不安が錯綜する、もやもやと落ち着かない日々が続き、業務に集中するための気持ちの切り替えに苦労しました。

## 4. 今後について

これまでと同様に、日々研さんに努め、技術力を向上させていきたいと思えます。

そして、これからは技術士の名称を用いる機会が増えますので、より一層倫理観と責任感を持って業務を行います。

また、他の技術士の方々と交流を持つことが出来たならば、部門にとらわれず、繋がりを持たせていただければ幸いです。

最後に、私の技術士取得に当たり応援いただきました皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。

「ありがとうございました」